

# 健康相談室

今月の回答者

飯沼 宏之 心臓血管研究所(東京都)副所長  
井口 傑 慶應義塾大学医学部整形外科講師  
福田 護 聖マリアンナ医科大学乳腺内分分泌外科助教  
横谷 進 虎の門病院(東京都)小児科部長

## 異常のない不整脈といわれたが、毎日が不安

27歳、女性。中学3年から期外収縮がでるようになり、出産を機にその回数が増えてきました。携帯型心電計などあらゆる検査をしましたが、異常なして治療もなし。軽い動作でも感じるようになり、毎日不安です。治療法はありませんか。(群馬県 Y)

## 内科 薬物療法で軽減できるが、神経質にならないよ

自分に打ったり、1拍とんだり、脈拍のリズムが不規則になる不整脈を「期外収縮」といいます。無症状のことが多く、たまたま受けた検診で発見され、精密検査目的で専門医に紹介されるといふケースがほとんどのようです。そうした場合、精密検査の結果、不整脈が心疾患や他の疾患による心機能低下状態を合併していない「特発性」と呼ばれるものであるとわかると、治療の必要なしと判断されます。それは、このまま放置してもそれ以上悪くなることはなく、不整脈が高じて重大な疾患につながるという心配はまったくないことが、数多くの臨床研究からわかっているからです。

しかし、相談者のように1発(回)の不整脈でも感じてしまう人がまれにあります。そのような場合には、期外収縮を減らし、症状を軽減することを目

的とした投薬治療が行われます。ただし、たとえ強力な抗不整脈薬を用いても、期外収縮を1日0発にすることは極めて困難です。ちなみに、臨床試験で極めて有効と判断される基準は、投薬前の75%以上の期外収縮が消失した場合となつています。これを0発にしようとする投薬量や薬の種類をふやすと、致死的な不整脈をおこすなど、重大な有害作用が現れやすくなります。また期外収縮に伴う症状には、漠然とした不安感に基づく要素が多分にあり、精神的な面のケアも含めて、抗不安薬を併用することもあります。無用の心配はするまい。多少はがまんしようという患者さん自身の決意も治療上、非常に大切であるといえましょう。不快感が強く、それがつづくようならば、薬物療法も含め、専門医に相談されるとよいと思います。(飯沼宏之)

## ダンスが原因といわれたモルトン病。完治できる?

50歳、女性。歩行困難になるほど足ゆびの付け根が痛みだし、モルトン病と診断されました。2カ月ほど湿布と服薬をしましたが、痛みはとれません。X線では腫瘍はないとのこと。長年の趣味の社交ダンスが原因といわれ、ショックです。(東京都 S)

## 整形外科 神経腫の状態であれば、ダンスより治療に専念を

モルトン病は、足ゆびの間に有痛性神経腫が発生する病気で、体重をかける第3趾と第4趾の間に焼けるような痛みがはしり、歩くと強くなります。神経腫といつても、本当の腫瘍ではなく、ゆびに行く足の裏の神経が、靭帯に圧されて変性し腫大する「偽神経腫」です。ですから、悪性腫瘍のように周りに広がったり、転移したりはしませんし、もちろん命には関係ありません。原因は足先の荷重です。ハイヒール、幅の狭い靴や底が薄くて硬い靴のほか、硬い床の上での運動や踊りも要注意です。相談者もそうですが、社交ダンスがはやってきてからふえている病気で、治療は、それらの荷重をさげることから始まります。まずは、鎮痛消炎剤や湿布、塗り薬を使い、症状に応じて中足骨棧や除圧用の中敷き、アーチサポートなど荷重を避ける装具

療法や、ステロイドの注射を行います。いったん神経腫ができてしまうと、こうした保存療法で治るのは3割程度で、3カ月~2年しても痛みがつけば手術をします。しかし、神経腫を切除しても完治とならないケースもあるので、神経腫の状態にしないことが肝心です。相談者の場合、まだ神経腫は認められないとの診断のようですが、モルトンの神経腫はX線写真やCTでは写りません(MRIには写ります)。第3、4趾の中足骨頭間に腫瘤(しゅりょう)を触れ、圧痛、放散痛、灼熱感があることが診断の決め手になります。似た病気もあるので、よく診てもらってください。神経腫になつていなければ、症状に注意しながらダンスをつづけることも可能ですが、神経腫の状態であれば、ダンスはやめて治療に専念したほうがよいでしょう。(井口傑)